

「いのち」とは

「ドナーカード」というものがこんな田舎町のコンビニにまで置かれて、臓器移植が奨励はじめられました。

「おまえ年よって社会のお役にあまり立たなくなってきたし、せめて死んだら臓器提供して、人のお役にたつたらどうか」と、なんかそんなメスを喉元に突き付けられているような気もいたします。

いえ現に、町役場に勤めているわが家の嫁御さまは、やんわりとそんなことを言つていつたようにも思います。

人間のからだの働きが止まってしまって、いわば「醜い肉の塊」になつたら、そんな役立たずの老いぼれになつてしまつたら、そんなのなんの打ちもねえ。切り刻んで再生紙みたいに活用してもらえば御の字よ。

そんなこんな、当事者としよりが、深刻に悩んでいるときに聞いた話です。

たれか偉いお人のおかあさんが死んなさつた。日ごろ親不孝だった息子が大慌てで帰つてみたら、お母さんは既に亡くなっていた。親不孝を詫びて、遺体にとりすがつてみたときに気が付いた。なんととても立派な死に衣装。がわの者に聞いてみたら

「おかあさん、とても美しい死にがおじやつた。美しく生きて美しく死んで行つたおかあさん。いや、いまでも美しく生きとんさる。たしかに。

人の「いのち」ってなんでしょうねえ。

死んだら終わり。年とつたら最後。そんな「いのち」には生きたくないと思ひます。

何かわからんが、死んでも死なん「いのち」が、わたしはあるよう気がしているんです。すが、ここでひとつ引つ掛かるのは「いのち」ってなんだということです。

人間のからだの働きが止まつてしまつて、いわば「醜い肉の塊」になつたら、そんなのなんの打ちもねえ。切り刻んで再

庫裡厨房 ようやく完成

明年四月一・二日の法事に向けての準備が進行しつつあります。

本堂内部の金箔押し替え工事は、その基礎的工程の塗りと磨きをおわり、近日中に箔押しにはいろうとしています。「巻き障子」と「欄間」は取り付け工事を待つばかりです。それらの工事の進捗状況をみながら、本堂外陣の床張替と畳替えをすすめていかなければなりません。

庫裡厨房の改装は、始めてみるといかにも細々とした部分の多い手の込んだ工事になりました。湯口施設と中島建設の連日の奮闘のお陰で、ようやく完成してみますと、今までよりも前から死に衣装準備しとられました」ということ。

これら工事にあわせて、その都度配線してあつた電気配線を、統一的にしようと永井電気によつて考案施工されつづります。

勝林寺門徒一同として心から感謝申したいと

高福寺本堂・庫裡

新築落慶法要勧修

出石町宵田町角の高福寺は明治中期出石大

失するという苦難の中から立ち上がり今日にいたりました。歴代住職・ご門徒の護法の熱意は出石組内の師表でありました。

そのような事情もあって堂宇の老朽化はげしく、やむを得ず新築を決断されました。

ご住職・ご門徒のご苦労を推察し、新築成敬意の思いひとしおなるものがあります。落慶法要は

十一月一一十八日(日)



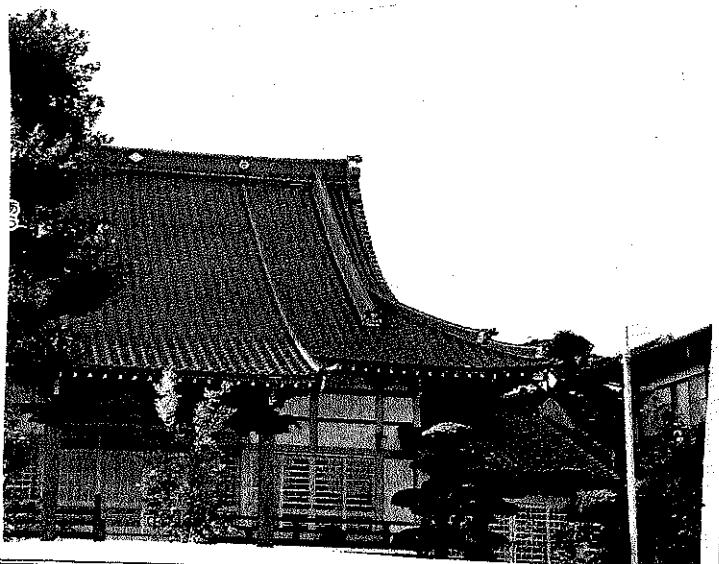
こども研修会
ありがとう(続)



西宗寺 落慶法要

本堂造営
門徒会館修復

西宗寺



十月一二日(日)

午前九時

出石町嶋の西宗寺は、勝林寺と歴代「きようだい寺」として支え合つてその歴史を歩んできました。平成七年七月の即如ご門主さまの「」巡教も勝林寺と共にお迎え致しました。其の際、西宗寺本堂並びに門徒会館は地盤変動のために倒壊の危機にあることを発見。急遽造営改築の議を興さざるをえなくなりました。しかしこのような緊急事態とは言ふものの、時あたかもバブル経済崩壊後の不況下、それだけにご住職ご門徒の心痛辛労は察するにあまりあるものがございました。三年にあまる血のにじむ有縁の方々のご懇念の集積として、いま旧を越える威容で新築修復されたことは、この地方この世紀の快挙・偉業と言わなければなりません。勝林寺として心からお慶びするとともに、今後旧にも倍して同心同行の嘉みをいただきますよう念